

「終わりよければ」いせの会 会報55

平成25年7月4日版

電話 0596・63・5226
ファクス 0596・63・5236

5月8日定例懇談会の報告

8名参加。8月24日の市民公開講座を開催することの詳細をさらに決定。

田辺さんと連絡をとり、舞台準備をつめた。

↓伊勢市広報8月号にお知らせも掲載予定

8月までの懇談会の日程を調整。集まれる者だけでも進行の詳細を考えることにする。

6月5日、7月10日、8月7日

6月12日定例懇談会の報告

6月5日は都合が合わず流会となり、12日に再度4名で、集まる形になりました。

6月に社会福祉協議会の助成事業に応募する内容の検討をして、素案がまとまりました。↓A4で3枚。中段に概要を提示。

「終わりよければ」いせの会の次回定例会
7月10日（水）19時から。 縁の家

「終わりよければ」いせの会の次回定例会
8月7日（水）19時から。 縁の家

審査会があります、ご都合がつけば参加下さい。計画書説明は遠藤が実施します。

伊勢市社協・市民活動助成事業の審査会

平成25年7月11日（木）14時～15時

場所 伊勢市社協 御園支所2階

（ハートプラザみその 北側）

説明順番は抽選の上で、申請団体が7分間ほどで実施内容を説明し、審査委員から質問があるとのことでした。計画書の概要を引用します。

事業名

認知症・市民公開講座 10万の事業費を申請

主旨及び目的

在宅で介護にたずさわる家族（市民）の孤独感を軽減させ、虐待にならないだろうかという不安感にも視野を広げる事で対処できる方策を提示したい

事業内容と概要

介護講談 「ほっとけ心のアップレ介護」

講談師 田辺鶴瑛さんの、実体験に基づく認知症

介護のコツ 総事業費は18万円の予算

歯切れの良い講談で、認知症介護の経験談を聴いていただき、介護体験の共有と、新鮮な視点があることに気付いていただきたい。特に、義父の介護は実際にDVDに収められており、在宅ケアの実際が拝見できると共に、在宅での看取りも理解できる内容である。↓詳細はチラシを参照ください

事業の必要性と効果

高齢者をめぐる医療や介護の問題の中でも、癌に対しては癌対策基本法などの法的な取り組みが病院でも進められ、緩和ケア施策も目に見えるような時代になっている。しかし、今後増加する認知症に対する不安は広がり、有効な施策は地域で提示され

ていない。このため、「認知症になったら、病院や施設へ」という閉塞感が、現実の認知症の本人や家族を包み込んでいる状況だと思われる。余裕を持って介護や治療に当ることも可能で、最期まで自宅で過ごす事もできるという視点を、まず当事者や市民がこの講座から得ていただきたいと思う。

事業の公益性とは

認知症は、いまやどの家族も身内の問題として避けては通れない普遍的な問題になっている。また治療可能な他の病気との差異があり、家族の対処の大きな悩みになっている。

地域の福祉課題や生活課題との関係性

認知症介護は、早期から地域の中で相談しにくい問題でもある。表立って相談が支持されない地域では、相談先をどのように確保するかは、個別に極めてデリケートな課題であると思う。

市民や関係者が参考になる先駆性

地元での事例は、個人情報で取り上げ紹介しにくい面があるが、田辺さんの実体験は、極めて率直に事例が紹介され、また最期まで自宅で過ごした画像もあり、市民が勇気づけられる先駆例でもあると言えます。

今後の方向性

認知症に限って言えば、認知症を病気として啓蒙し、予防しようという取り組みは多いようです。しかし認知症の人と家族や私たちが住みやすい地域を、どう作っていくかという施策の流れはこれからです。本事業が少しでも貢献できればと思います。この講座に参加された後援団体の方々が、地域包括支援の核になって具体策を地域で話し合うきっかけになればと願います。

隔月に開催されている認知症しゃべり場「たんぼクラブ」とも関わりを持っていただければと願います。「終わりよければ」いせの会も、「認知症でも最期まで自宅で」を考え続けます。